

# **SINETが拓く 新しい学術情報基盤**

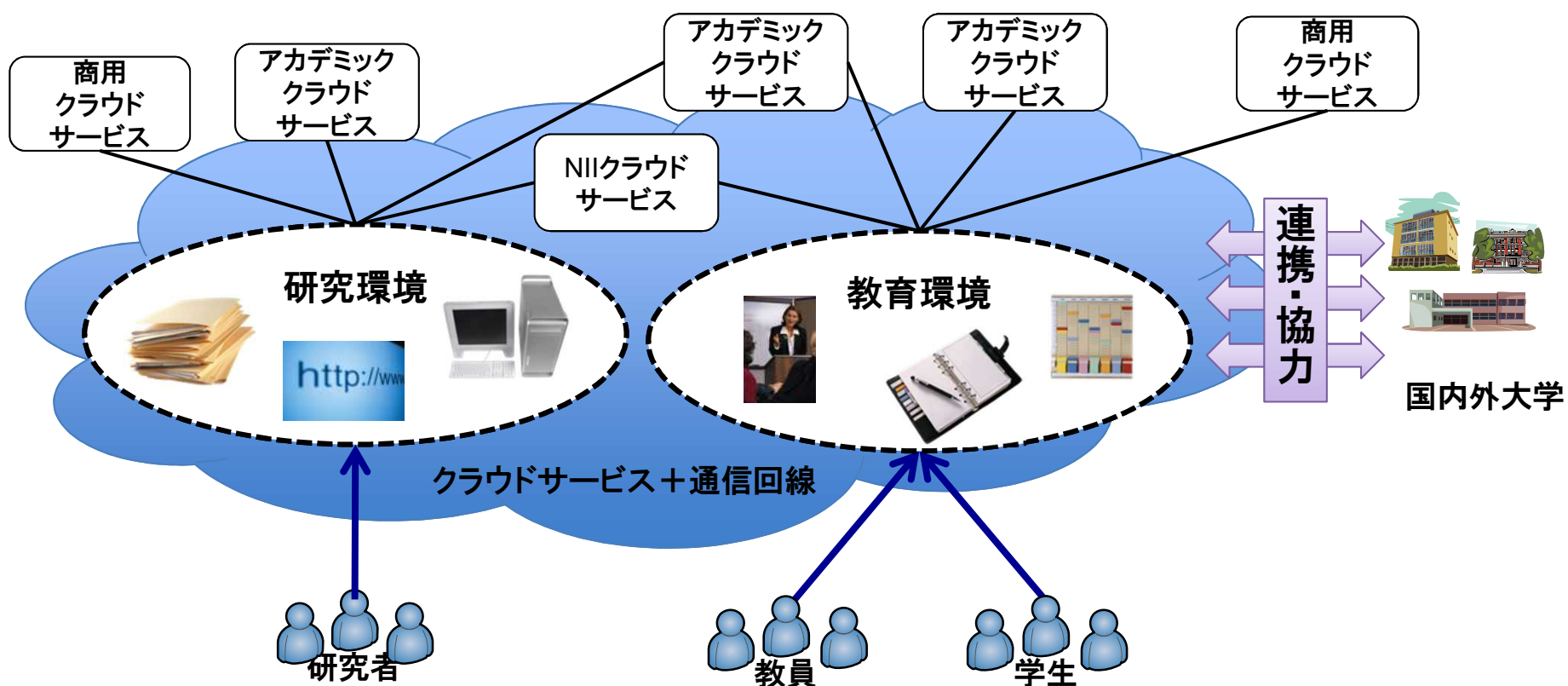
～ 次期学術情報ネットワーク計画及び  
アカデミッククラウドに関する構想 ～

平成26年1月17日  
国立情報学研究所

# 0. 今後の我が国における研究・教育のための情報環境のイメージ

## ◆ クラウドサービスと通信回線が一体として高度化され、研究・教育活動に必要なサイバー環境を提供

- ✓ 研究者、教員そして学生が必要とするサービスをすべてサイバー環境の上で利用できる
- ✓ サイバー環境内のデータや通信の安全性の確保がますます重要になる
- ✓ IT資源を共同調達し、サービスの共通化・高度化や効率化を実現したい



# 1. 現状

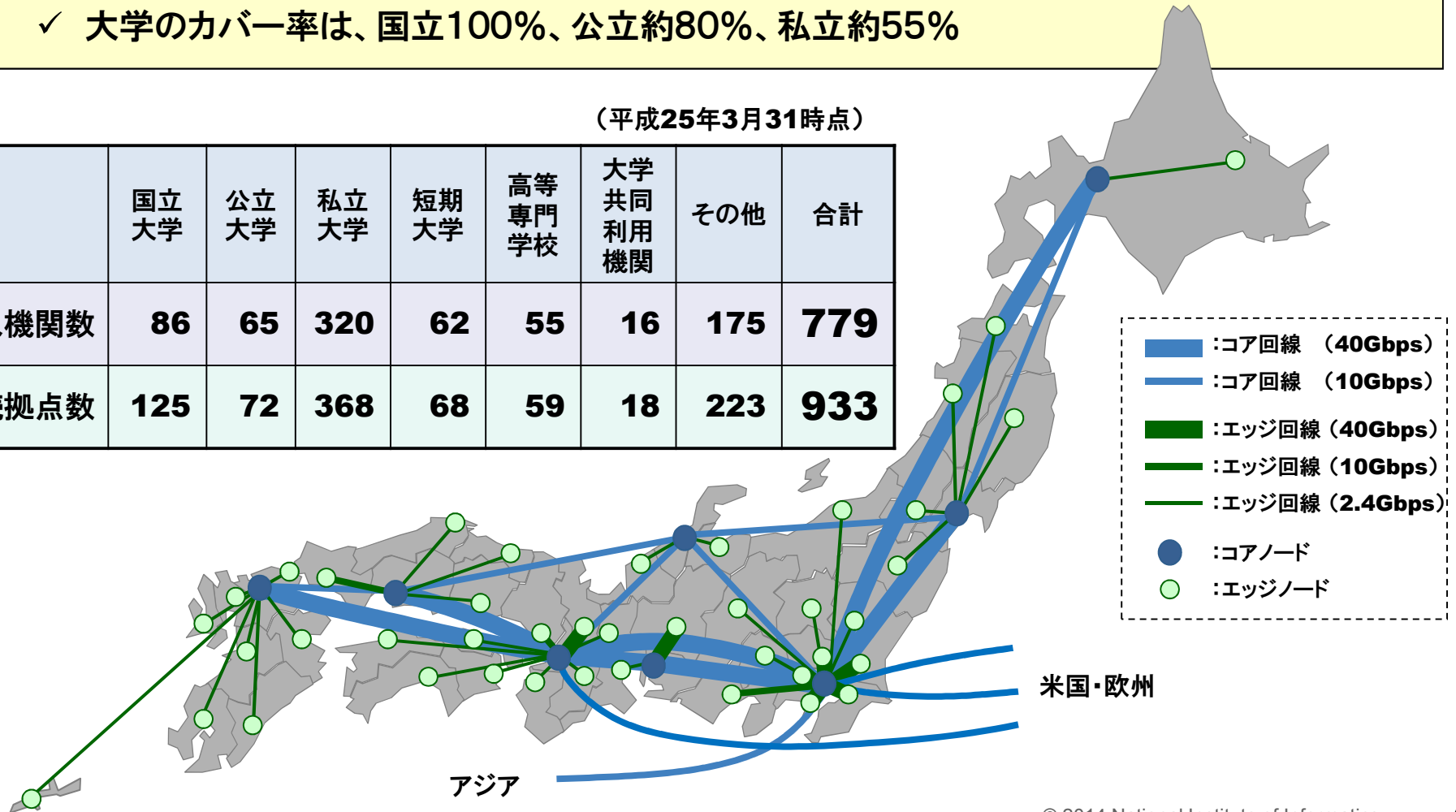
# 1-1. SINET4の現状

## ◆ 全国700以上の大学・研究機関等の200万人以上が利用する情報通信ネットワーク

- ✓ 現行のSINET4で全県をカバー（SINET3では34県）
- ✓ 大学のカバー率は、国立100%、公立約80%、私立約55%

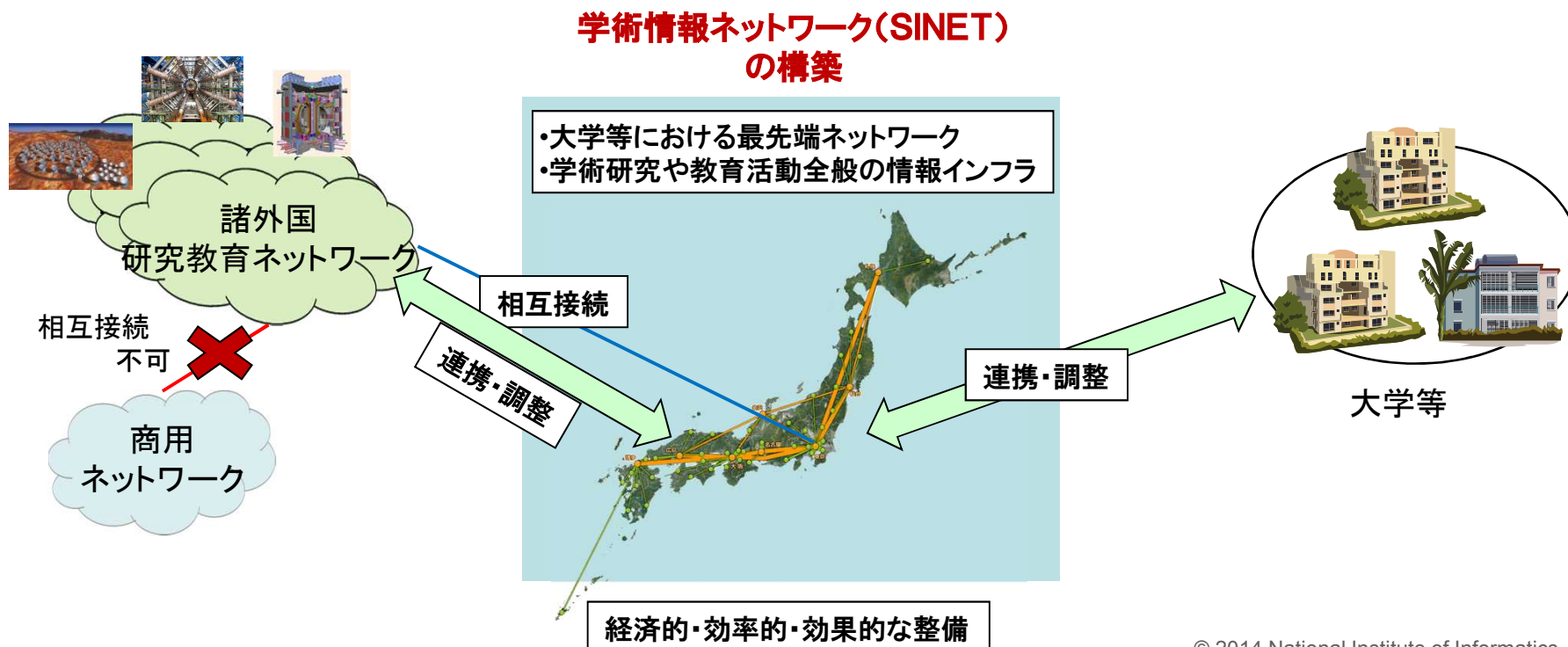
(平成25年3月31時点)

	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等専門学校	大学共同利用機関	その他	合計
加入機関数	86	65	320	62	55	16	175	779
接続拠点数	125	72	368	68	59	18	223	933



## 1-2. これまでの取り組み

- ◆ 昭和62年(1987年)以降、継続して我が国の学術情報ネットワークを整備・運営
- ◆ 先端的学術研究の推進・連携に不可欠な最先端ネットワーク基盤であるとともに、我が国の大学等における学術研究や教育活動全般を支える情報インフラとして整備
- ◆ 諸外国の研究教育ネットワークとも接続し、国際間共同研究を支援
- ◆ 「学術ネットワーク運営・連携本部」等を通じて大学等と密接に連携し、学術コミュニティのニーズを踏まえ、SINETや関連する事業を企画・立案
- ◆ 一元的な整備を行うことにより、経済的、効率的かつ効果的に構築



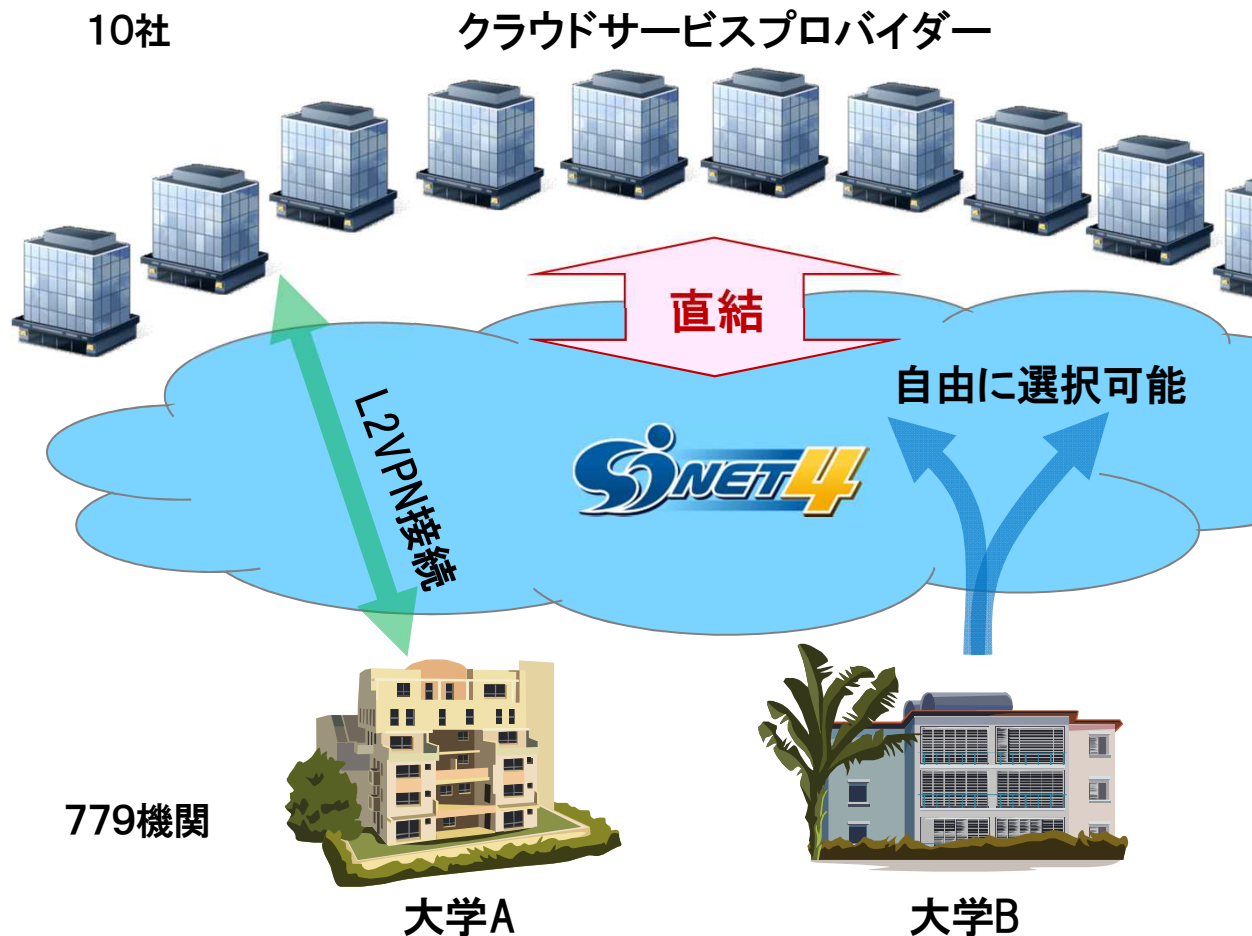
# 1-3. SINETの現状 — 最先端の学術情報基盤

◆SINETは、①大型実験施設等の共同利用、②各研究分野での連携力強化、③世界各国との国際連携、④学術情報の発信やビッグデータの収集等、のための学術情報基盤



# 1-4. SINETの現状 – クラウドサービスが急伸

- ◆クラウドサービスプロバイダー10社がSINETに直結し、サービスを展開
- ◆加入機関のクラウドサービスへの期待は、**低価格、高性能、高セキュア、使い易さ等**



DC	サービス提供機関	状態
札幌	さくらインターネット(株)	利用可
札幌	東日本電信電話(株)	利用可
東京	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	利用可
東京	NTTコミュニケーションズ(株)	利用可
東京	(株)データホテル	利用可
東京	富士通(株)	利用可
東京	UQコミュニケーションズ(株)	利用可
大阪	(株)インターネットイニシアティブ	利用可
大阪 福岡	NTTスマートコネクト(株)	利用可
福岡	(株)NTTデータ九州	利用可